

## 令和元年度我孫子市「人・農地プラン」検討会 会議録

1. 会議名称 我孫子市「人・農地プラン」検討会
2. 開催日時 令和2年2月25日（火）午後5時30分から午後6時45分まで
3. 開催場所 水の館3階研修室
4. 出席又は欠席した委員その他会議に出席した者の氏名

出席委員 (13名)	高橋委員、大井（一）委員、小倉委員、野口委員、玉根委員、大井（栄）委員、海老原委員、日暮委員、伊藤委員、松本委員、美濃委員
欠席委員	なし
事務局 (4名)	農政課 秋田課長補佐、廣瀬主査長、永井主任主事 農業委員会事務局 富塚係長

5. 議題
  - (1) 会長・副会長の選出について
  - (2) 「人・農地プラン」とは
  - (3) 我孫子市「人・農地プラン」の変更について
  - (4) 「人・農地プラン」の実質化について
6. 公開・非公開の別 公開
7. 傍聴人及び発言者の数 0名
8. 会議の内容

本日の配布資料の確認を行った。  
司会（秋田課長補佐）より開会宣言。  
農政課長より挨拶を行った。  
委員の紹介、事務局の紹介を行った。

司会は議題の（1）会長・副会長の選出について審議したい旨を述べ、会長の選出方法について諮った。

委員：「事務局からの推薦でよいのではないか」

異議なしの声あり、事務局は農地利用集積団滑化団体から選出の松本委員を推薦した。

異議なしの声あり、出席委員満場一致で承認され松本委員が会長に選任された。

設置要綱第5条に基づき会長が議長となった。

議長は副会長の選出について審議したい旨を述べ、選出方法について諮った。

委員：「会長からの推薦でよいのではないか」

異議なしの声あり、会長は千葉県手賀沼土地改良区から選出の小倉委員を推薦した。

異議なしの声あり、出席委員満場一致で承認され小倉委員が副会長に選出された。

議長は議題（2）「人・農地プラン」とは について事務局に説明を求めた。

事務局は、「人・農地プラン」の概要について説明した。

議長は議題（3）我孫子市「人・農地プラン」の変更 について事務局に説明を求めた。

事務局は資料1～12を用いて以下のように説明した。

- ・令和2年2月（今回）の更新で10回目の見直しとなる。
- ・これまでに「人・農地プラン」に位置付けられた経営体のうち、農業経営改善計画の再認定を受けた等、新たに計画を立て直した経営体について内容の更新を行った。

事務局の説明について質問は特になかったため、議長は、議題（3）我孫子市「人・農地プラン」の変更についての承認を議事に諮ったところ満場異議なく承認された。

議長は議題（4）「人・農地プラン」の実質化について事務局に説明を求めた。

事務局は資料13～15を用いて以下のように説明した。

- ・現在我孫子市では全域を対象としたプランが作成されているが、詳しい地域の状況までは把握できていない。そこで今年度より、人・農地プランをより具体的かつ実現可能な計画にすべく、地域ごとの詳細なプランを作るという流れが全国的に始まっている。これが「実質化」であり、国から要件が示された。
- ・実質化の要件としては、地域ごとにアンケートを実施し、地図等により現況を把握、取りまとめを行なうというものである。
- ・現状最も実質化に近い地域としては江蔵地地区を考えており、春以降アンケートを実施予定である。
- ・アンケートの配布や集落座談会の開催等にあたって、今後はより各地域の農業の実情に精通している農業委員、農地利用最適化推進委員に積極的に参加してもらい、新たな担い手の掘り起こしや、実質化が可能と思われる地域の見極めについて協力をお願いしたい。
- ・今回の検討会では、江蔵地地区で配布する予定のアンケート（案）について委員の方々に意見をもらいたい。

事務局の説明に対して以下の質疑応答があった。概要は次のとおりである。

委員：「アンケートは5年後もしくは10年後また行うのか。その頃には営農状況も変わっていると思われるが。」

事務局：「その予定である。事業を継続していくためには農業者自身が問題意識を持ってもらうことが重要であり、プランは一度作成して終わりではなく、地域の担い手の営農状況が変化していく中で再検討を行っていく。」

委員：「(アンケート(案)について)生産緑地の所有の有無やその利用意向についての質問項目を加えてはどうか。」

事務局：「今後生産緑地の貸借制度の運用を行っていくこともあり、項目の追加を検討する。」

委員：「(アンケート(案)について)水田の担い手からは土地の地代(賃借料)が大きな負担になっているという意見もあり、地代に関する質問項目を加えてはどうか」

事務局：「項目の追加を検討する。」

委員：「プランの有無にかかわらず、特に水田農業経営者が今後営農を継続していくためには基盤整備を進めてもらうことが必須である。営農に適した土地であるかどうかは地図上で色塗りするだけではわからない。」

事務局：「高野山揚水機場の改修等、土地改良区による事業も進んでいる中で、市としても、少しでも営農環境が改善するよう取り組んでいく。」

委員：「農地を集積し、プランを遂行させるにあたっては、地権者と担い手との交渉に対する行政の支援が必要であると感じる。非農家の地権者にも、農業振興への意識を持ってもらえるようにしてほしい。」

事務局：「市としても同じ意識をもって農地集積を推進する。」

議長はその他議題に関係なく意見を求めたところ、以下の質疑応答があった。概要は次のとおりである。

委員：「先の台風により北新田地区では大規模な水害が発生したが、今後当該地区で営農が継続できるのか心配である。集積も進まないのではないか。」

事務局：「泥が堆積し復旧に時間がかかっている圃場もあると聞いている。今後も随時状況把握を行っていく。」

議長はその他の意見を求めたが意見がなかったため、以上で検討会を終了した。